

トレニア “ムーンシリーズ”

*科名：ゴマノハグサ科 *属名：トレニア属

*性状：非耐寒性多年草 *原産地：インドシナ

●トレニアにもたくさんの種類がありますが大きく分けて、実生系と栄養繁殖系の二つに分かれますが、弊社の生産しているトレニアは栄養繁殖系の方になります。海外で品種改良が進みこれまでの実生系のトレニアに比べ非常に強健で生育が旺盛です。



【販売店様へ】

もともと、高温性の植物ですので、気温の高くなる5月に入ってから植え付けが望ましいです。あせって、早い時期（4月）から植えてしまうと、いったん生育が止まってしまう、葉が黄化し、その後、生育不良になってしまう恐れがあります。そのため、幣園での出荷開始は5月からとなります。店頭では日当たりの良い場所に置いて下さい。気温の上昇とともに、水もたくさん欲しがります。特に4寸未満のポット苗では水管理に充分、気を付けてください。

生育も旺盛なため、幣園では若干の矮化剤を使用しておりますが、その後の生育に影響のない程度の範囲で使用しております。矮化剤の使用は店頭での間延びを防ぐと同時に葉を肉厚にして病害虫への対抗性を高める効果もあります。ご理解ください。

【購入されたお客様へ】

購入されたら、すぐに、ひとまわり大き目の鉢に植え替えてください。他の植物との寄せ植えにも向きますが、お奨めはトレニアのみでの大株作りです。直径30cm程度のボール鉢などに3株~4株で、一ヶ月もすれば、鉢全体を覆い尽くす程の株になり、たくさんの花を咲かせるでしょう。置き場所は日当たりの良い場所が望ましいです。このトレニアは真夏でも休むことなく次から次に花を咲かせ、とても生育が旺盛で管理も簡単です。

上手く育てるコツは水と肥料を切らさないことです。そのため大きな鉢に植え替えることで水遣りの手間を省くことができます。肥料は即効性の肥料（置き肥）を少し多めに与えますが、肥料切れを未然に防ぐ為、同時に緩効性の肥料（置き肥）も与えます。そして、肥料切れを起こしてしまった場合に備え、即効性の液体肥料（注：液体肥料はほとんどのものが即効性で、肥効期間も短い）も準備しておきましょう。それから、終わった花柄はなるべく取り除いてください。特に梅雨時はこまめに花柄を取るように心がけてください。以上のことに注意すれば、関東以南でしたら10月いっぱいまで綺麗な花を咲かせてくれるでしょう。